参考別表第1

木造の校舎又は寄宿舎の耐力度調査票

IV 学校種別	V 耐力度調査票通し番号

（表面）

I 調査学校	番号（ ）（ ）	学校名	番号（ ）	調査日	平成 年 月 日
	府県 市郡 町村				

調査者	職名	建築士資格	氏名
		級	㊞
		級	㊞
		級	㊞

III 結果点数	
Ⓐ構造耐力	耐力度
点	Ⓐ×Ⓑ×Ⓒ
Ⓑ保存度	点
点	耐力度分類番号
Ⓒ外力条件	

II 調査建物	区分	面積 一階面積	面積 延べ面積	建物の経過年数 建築年	建物の経過年数 経過年数	外壁仕上げ	棟番号	昭和21年以降の構造体の補強 補強年	主な補強箇所
	校舎 / 寄宿舎								
階別	二階建以上			明治 大正 昭和 平成 年					
	平屋建	m2	m2		年				

	区分		第一列	評点	第二列	評点	第三列	評点	第四列	評点
Ⓐ構造耐力	①基礎構造		布コンクリート造	5	布石構造又は布れん瓦造	4	壷石造、壷コンクリート造又は壷石れん瓦造	2	木くい基礎又は掘立柱	0
	②土台		柱と同寸法以上の土台があるもの	5	柱と同寸法未満の土台があるもの	4	古材を使用した土台があるもの	3	土台がないもの	0
	③柱	二階建の場合における一階の柱	断面積が15cm角以上のもの又は13.5cm角のもの2本	7	断面積が12cm角のもの2本	5	断面積が13.5cm角のもの	3	断面積が13.5cm角未満のもの	0
		平屋建の場合における柱	断面積が13.5cm角以上のもの又は12cm角のもの2本		断面積が12cm角のもの又は10.5cm角のもの2本		断面積が11.5cm角のもの		断面積が11.5cm角未満のもの	
	④壁体 張り間方向	壁面	大壁	5	—		腰板張の真壁	2	真壁	0
		間隔	固定間仕切間の距離が9メートル以下のもの	5	固定間仕切間の距離が9メートルをこえ18メートル以下のもの	3	固定間仕切間の距離が18メートルをこえ27メートル以下のもの	1	固定間仕切間の距離が27メートルをこえるもの	0
	けた行方向	壁面	大壁	5	—		腰板張の真壁	2	真壁	0
		延長	一教室の外壁及び廊下仕切の壁で開口部のない壁体の延長が7.2メートル以上のもの	5	一教室の外壁及び廊下仕切の壁で開口部のない壁体の延長が7.2メートル未満5.4メートル以上のもの	4	一教室の外壁及び廊下仕切の壁で開口部のない壁体の延長が5.4メートル未満3.6メートル以上のもの	2	一教室の外壁及び廊下仕切の壁で開口部のない壁体の延長が3.6メートル未満のもの	0
	⑤筋違及 張り間方向	平屋建	柱と同寸法の筋違若しくは柱二つ割のたすき筋違が取り付けてあるもの又は組んだ控柱があるもの	5	柱二つ割の片筋違があるもの又は組んでない控柱があるもの	3	左記の構造以下の筋違が取り付けてあるもの	1	筋違も控柱もないもの	0
		二階以上	柱と同寸法のたすき筋違が取り付けてあるもの又はトラスに組んだ控柱があるもの		柱と同寸法の片筋違若しくは柱二つ割のたすき筋違が取り付けてあるもの又は組んでいない控柱があるもの		左記の構造以下の筋違が取り付けてあるもの		筋違も控柱もないもの	

び控柱 けた行方向	平屋建	柱と同寸法の筋違又は柱二つ割のたすき筋違が取り付けてあるもの	5	柱二つ割の片筋違が取り付けてあるもの	3	左記の構造以下の筋違が取り付けてあるもの	1	筋違も控柱もないもの	0
	二階以上	柱と同寸法のたすき筋違が取り付けてあるもの		柱と同寸法の筋片違又は柱二つ割のたすき筋違が取り付けてあるもの		左記の構造以下の筋違が取り付けてあるもの		筋違も控柱もないもの	
力 ⑥屋根ふき材料		トタンぶき又は土居ぶきの類	3	スレートぶきの類	2	瓦又はセメント瓦の類	1	かやぶきの類	0
⑦点数	小　　計								
	合　　計	(上記の計　　)＋50＝(　　　)………Ⓐ							

Ⓑ 保存度			二　階　建	評点	平　屋　建	評点
⑧建物の経過年数		建築した年からの経過年数(移築した建物にあっては移築した年からの経過年数)　(　　年)	経過年数 5−0.1×(　　)＝		経過年数 5−0.1×(　　)＝	
⑨外壁土台の腐朽		腐朽の延長(　　m) / 外壁の延長(　　m) ＝腐朽率　小数点以下2位まで (　　　)	腐朽率 10−10×(　　)＝		腐朽率 10−10×(　　)＝	
⑩外壁柱の腐朽		腐朽の本数(　　本) / 外壁の柱本数(　　本) ＝腐朽率　小数点以下2位まで (　　　)	腐朽率 10−10×(　　)＝		腐朽率 10−10×(　　)＝	
⑪二階はり及び小屋はりの腐朽		腐朽の本数(　　本) / はりの本数(　　本) ＝腐朽率　小数点以下2位まで (　　　)	腐朽率 5−10×(　　)＝		腐朽率 5−5×(　　)＝	
⑫柱の傾斜	張り間方向	柱高1.8メートルの部分について最大傾斜を測定した場合の傾斜(　　cm)	傾斜 20−4×(　　)＝		傾斜 20−2.5×(　　)＝	
	けた行方向	柱高1.8メートルの部分について最大傾斜を測定した場合の傾斜(　　cm)	傾斜 20−4×(　　)＝		傾斜 20−2.5×(　　)＝	
⑬横架材の傾斜	張り間方向	1.8メートルの部分について最大傾斜を測定した場合の傾斜(　　cm)	傾斜 15−5×(　　)＝		傾斜 15−3×(　　)＝	
	けた行方向	1.8メートルの部分について最大傾斜を測定した場合の傾斜(　　cm)	傾斜 15−5×(　　)＝		傾斜 15−3×(　　)＝	
⑭点数	合　　計	小数点以下1位まで (　　　　)………Ⓑ				

Ⓒ 外力条件	風　　力		地　　震　　力	
⑮条件	a 地域区分	b 校地の位置	c 地域区分	d 地盤
	1 国土交通省告示によるV_0 36〜46の地域 2 $V_0$32、34の地域 3 $V_0$30の地域	1 海岸から8km未満の区域 2 海岸から8km以上の区域	1 国土交通省告示による多雪地域 2 一般地域で重い屋根のもの 3 一般地域で軽い屋根のもの	1 国土交通省告示による軟弱な地盤 2 国土交通省告示による普通の地盤
⑯係数	(外力条件分類番号 a・b・c・d)　左に応ずる外力係数(右表より)(　　　)………Ⓒ			

外力係数表

外力条件分類番号	係　数
1111	0.80
1112	0.83
1121	0.83
1122	0.86
1131	0.86
1132	0.90
1211	0.83
1212	0.86
1221	0.86
1222	0.90
1231	0.90
1232	0.93
2111	0.83
2112	0.86
2121	0.86
2122	0.90
2131	0.90
2132	0.93
2211	0.86
2212	0.90
2221	0.90
2222	0.93
2231	0.93
2232	0.96
3111	0.86
3112	0.90
3121	0.90
3122	0.93
3131	0.93
3132	0.96
3211	0.90
3212	0.93
3221	0.93
3222	0.96
3231	0.96
3232	1.00

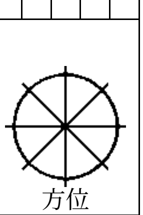
学校名	

(裏面)

1　調査建物の平面図(間仕切壁共)を1本線で、縮尺1／600にて図記する。
2　寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。
3　公立学校施設台帳に記載した棟番号を記入する。
4　測定室に測と記入する。
5　方位を記入すること。
6　補強カ所は(土台取替〰〰、柱根継取替○、控柱取付◎、筋違×)を図記すること。
7　2階がおかぐら増築の場合は、２階平面図に「おかぐら増築」と併記する。

昭和20年以前の構造体の補強	
補強年	主 な 補 強 箇 所

調 査 者 の 意 見



方位